

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

＜大学＞

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学生課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2013年度を目標に言語文化学(東アジア)プログラムを開設する。	→東アジアプログラムの開設、履修者数。	A	A	A	A	A
2. 2007年度に新設した日本語教育プログラムを充実させる。	→日本語教育プログラムの改訂、履修者数。	A	A	A	A	A
3. 社会人学生に対する学習支援方法を開発、適用する。	→指導体制の充実化、社会人対象のプログラムの実施。	B	A	A	A	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「言語文化学(東アジア)プログラム」については、カリキュラム委員会を中心として調整を行い、プログラム開設の準備を進めた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上記の結果、当初の予定よりも早く準備が整ったため、計画を前倒して2011年度よりプログラムを開設し、計5科目(中国語論文作成、中国語読解、中国語コミュニケーション、東アジア文化学特殊講義AおよびB)を新設した。専任教員3名を配して中国文化に焦点を当てた教育・研究を行っている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 言語文化学(東アジア(2014年度より中国語))プログラムの志願者数は、新設した2011年度は1名で、次年度以降は0名の状態が続いている。日中関係の悪化等外的要因も関係していると思われるため、改善策を策定するのは難しいが、地道な広報活動を継続させていく。	☆
		その他	☆

<p>目標2</p>	<p>A</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか カリキュラム委員会を中心として検討を行い、2011年に「日本語教育研究 I (翻訳論)」、「日本語教育研究 J (日本語と中国語の翻訳研究)」、「日本語教育研究 K (英語と日本語の翻訳研究)」、「日本語教育 L (日本語調査・分析法)」を増設した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 院生の専門知識が明らかに幅広くなり、思考力や分析力も入学時に比べて顕著に増加した。学会や研究会での発表にも反映された。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も継続して、日本語教育プログラムの専門教育レベルを維持していく。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>目標3</p>	<p>A</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 社会人学生を主な対象とした課題研究コースを設置し、夜間の授業を継続して開講してきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 継続的に社会人学生を受け入れ、他の学生への刺激となっているが、年々課題研究コースでの入学者が減少傾向にある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 課題研究コースでの入学者を増加させるよう、広報活動を強化する。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>備考</p>			<p>☆</p>